

LNG 価格決定方式の改善に向けた現状概観(サマリー)

石油・ガスユニット ガスグループ 主任研究員 橋本 裕

原子力発電再稼働の見通しが不透明な中、当面原子力発電喪失分の太宗を LNG により補わなくてはならず、これとタイミングを同じくして、世界の他地域と比較して日本向けの LNG 価格の高さが脚光を浴びることとなった。長期契約、短期契約、スポット購入ともにその水準を引き下げることの重要性は増している。

2011 年度の LNG 輸入総額は、前年度比 53%増加の 5.4 兆円となった。数量面の増加 18%に加え、価格が円建て全平均で 30%上昇(米ドル建てでは 41%上昇)したことが、総額の大増増加につながった。2011 年度予測名目 GDP 468 兆円に対して LNG 輸入総額は GDP の 1%を超えている。さらに為替レートの違いが円建て金額の多寡に大きく影響しており、2011 年度が 2008 年度並みの為替レートだったなら LNG 輸入総額も 6.5-7 兆円にも膨らんだであろうことが推察される。

2011 年度の LNG 輸入量は 8318 万トンと、2010 年度の 7056 万トンから 18%増加となった。この増加とともに、供給源構成も際立った変化を示した。増加分 1262 万トン中、半分以上の 658 万トンカタールが供給した。ナイジェリア、赤道ギニアのアフリカの生産国も大きく供給を増加した。米国の国内ガス生産増加に伴う LNG 輸入需要の減少、欧州ではガス需要全体の落ち込みのため LNG 輸入需要が大きく伸びていないことが重なって、大西洋向け供給源が一挙にフレキシブル供給と化し、日本はじめ太平洋市場に向かったものである。

わが国経済に対する影響度の大きさから、価格水準の引き下げは急務となっているが、「常に日本の LNG は高い」「LNG だから高い」「石油連動だから構造的に高い」といった先入観あるいは誤解を避け、適切な対応を模索していく必要がある。

構造的に石油連動価格が間違っているかのような議論がされることも多いが、2003-2007 年頃は日本の LNG 価格が、ヘンリーハブ価格も含めて、米国価格を下回っている期間が多かった。石油連動価格構造自体が格差を招いているのではなく、2008 年以降米国のシェールガス革命により、米ガス価格が下がったのであり、今後はそれを反映するためどうしたらよいか、ということが課題である。他地域市場の変化を含めた国際市場の環境変化を反映できる価格公式にする、あるいはこれを再交渉理由とすることを明示的に盛り込むなどの努力が必要となる。

必ずしも現在の石油連動の価格決定方式を否定するものではないが、これを含めて全体としての水準引き下げが必要であり、価格変動を生じるリスクを抑制しながら、たとえ部分的であっても、多様な価格決定方式の導入が望まれる。

お問い合わせ:report@tky.ieej.or.jp